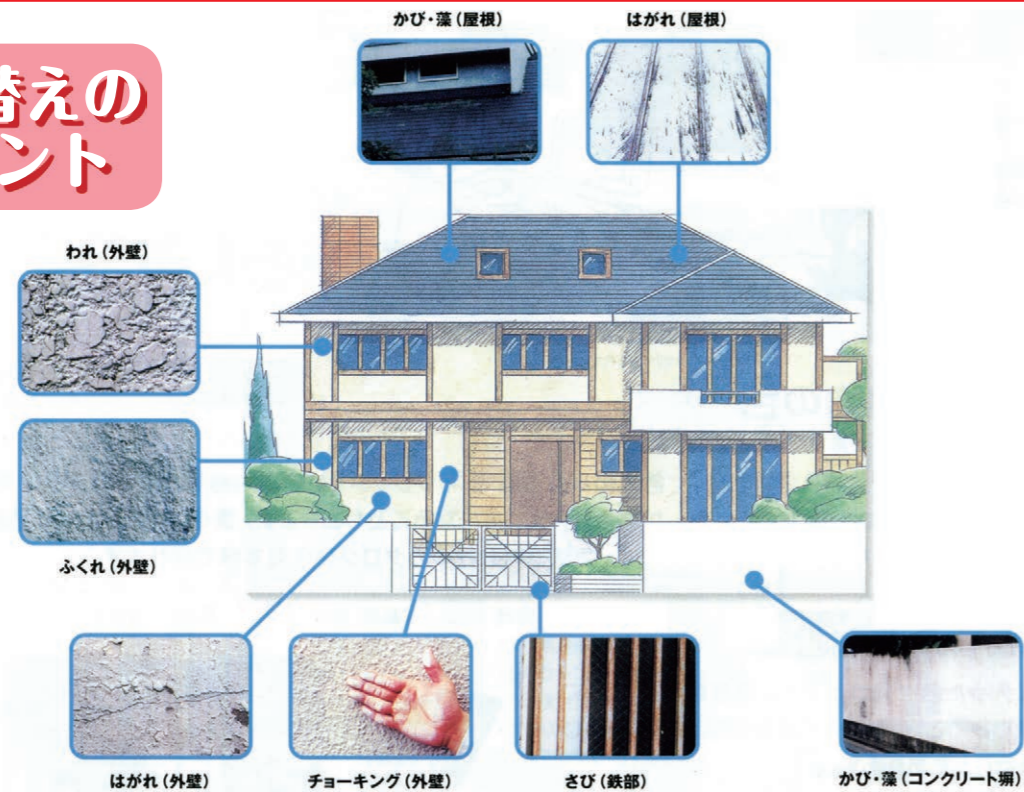


塗り替えのポイント



～塗り替えを判断するポイント～

- ★家全体に汚れ、チョーキング、色あせ、つや引けなどがみられ、外観上見苦しい状態が目立ってくる。
- ★建物の目視観察で、塗面の多くに、われ、ふくれ、はがれ、さびなどが発生し、建物まで傷みがおよんでいる。
- ★一般的な経過年数。などを組み合わせ判断してください。



建物の汚れが気になり出したら要注意

汚れ



汚れ(かび・藻)やさび、チョーキング(手で触ると白い粉がつく)が目立つ。

チョーキング



塗膜の傷みがはっきりと目立ち始めたら早めの塗り替えを

われ



外壁や屋根、鉄部に、われ、はがれ、ふくれ、さびなどがかなり目立つ。

はがれ



さび



塗膜の傷みを放置すると、塗膜の異常だけでなく、さらに建物自身まで傷みが進むことが予想され、建物表面の塗膜に不具合が見られたら、早めに塗り替えなどの手当てを。

Information

相談事業は、公益目的事業の一つである塗装技能・技術の知識の啓蒙普及事業の一環として、県市民の皆様の塗料・塗装工事への疑問や問題に対し、中立的な立場の専門家(ペイントコンシェルジュ)からの助言で、問題等の解決支援を行うものです。

本事業は、電話相談と巡回相談の2種類があります。相談は無料です。その他、実践的な塗装教室、体験教室「ペイント工房」やボランティア活動等があります。



ペインティング・ジャーナル Vol.19
令和4年3月25日 発行

公益社団法人 神奈川県塗装協会
神奈川県塗装技能訓練校

〒232-0014 横浜市南区吉野町3丁目-7
HENMIビル4階
TEL 045(325)8860 FAX 045(325)8944
<http://www.k-tosou.net>

ペインティングジャーナル

PAINTING JOURNAL Vol.19

塗装その先の未来

塗り替えの基本知識



- あなたの家をセルフチェックしよう!
- 塗り替えのポイント



塗装で彩る新時代

公益社団法人 神奈川県塗装協会

あなたの家をセルフチェックしよう!

まだまだ健康な家なら、塗装は数年先でも大丈夫かも。
逆に、ちょっとした傷みが、住まいの寿命を大きく縮めてしまうものもあります。

外壁 (モルタル・サイディング)

- かびや汚れが発生している
- ひびが入っている
- 塗料が色あせたりはがれたりしている

外壁の危険信号

1 細かなひび割れ (ヘアークラック)



ヘアークラックは、塗膜にひび割れが入っている現象で、壁が傷んできている状態だよ。
下地の細かいひび割れは、フィラーという材料で補修できるんだ!フィラーで細かいひび割れを埋めて、表面を平滑にするよ!

2 ひび割れ (クラック)



素材まで達したようなひび割れのひどいものは、放置しちゃダメ! 裂け目から雨水が入って壁の中を傷めてしまうことになるよ! **キケン!** しっかりチェックしよう!

ひび割れは、塗替える前にミゾを埋めてしっかり補修する。

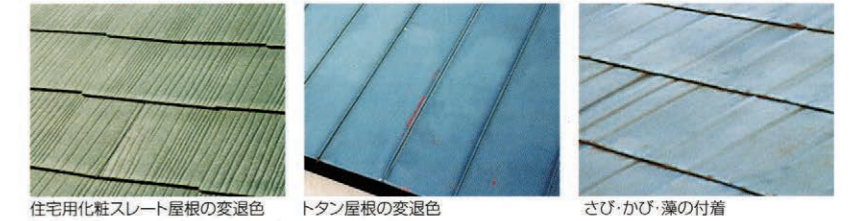
破風板・鼻かくし

- 腐食している
- 塗料が色あせたりはがれたりしている

破風板は、日本の住宅の屋根下についている三角型の装飾板。鼻隠しは、屋根の先端側についている装飾板だよ! ここがキレイになると、家全体の印象がグッと良くなる。

屋根 (トタン・住宅用化粧スレート屋根)

- かびや汚れが発生している
- トタンが浮いている
- さびている
- スレート板 (屋根板) が浮いている
- 塗料が色あせたりはがれたりしている



住宅用化粧スレート屋根の変退色 トタン屋根の変退色 さび・かび・藻の付着

新築の時と屋根の色が違って見えるのは、塗膜が劣化して表面の色があせていたり、酸性雨などの影響で色に変色してしまったりする。

水切とは、窓の下部など水が回り込みやすいところに取り付ける部材だよ! 細かいところもよく見よう。

窓枠・水切・面格子

- ひび割れやキズがある
- 塗料がはがれている
- 腐食している
- ガタツキやソリがある

鉄部の“さび”はしっかり落としてからさび止め塗料を塗ります。さび落としが不十分だとキレイに仕上がらないしすぐさびが出てしまうからね。

雨戸・戸袋

- ひび割れやキズがある
- 塗料がはがれている
- ガタツキやソリがある

ブロック塀・門柱

- ひび割れや破損がある
- さび・かびや汚れが発生している

玄関ドア・門扉

- さびている
- 塗料が色あせたりはがれたりしている

※このイラストはイメージ表現です。屋根にあがるのは大変危険ですので絶対におやめください。家屋診断は地上から目視で安全に確認できる範囲でおこなってください。脚立やハンゴなどの補助器具をご使用になる場合には、器具の取扱説明書等に記載の注意事項をまもり、安全に十分ご注意ください。さらに詳しい診断については、専門の業者へご依頼ください。